

エンジニアの視点

高崎東町店サービスマネージャー

堀口賢二

「精巧なエンジンと格闘 エンジニアとして成長」

スポーツカーに憧れエンジニアを志した堀口。入社して3年目、大きな転機となる出来事が訪れた。

6代目クラウンを契約された、独自のこだわりを持つお客さまとの出会いだった。「オーバードライブに入る速度をノーマルとは異なる設定にして欲しい」とのオーダー。全く初めての体験である。エンジニアにとってクラウンはトヨタの先端技術の粋を集めたクルマであり、エンジンも大きく扱いが難しい。「パーツの二つが非常に精巧。修理には他車以上に時間を要した」

堀口はお客さまの期待に応えようと必要な部品を取り寄せ、数日間にわたって油まみれになった。設定と試運転、分解を繰り返し、ミリ単位の調整に苦戦。その結果、お客さまの満足そうな笑顔をみる事ができた。

「扱いに経験を要する最高級車のクラウンと、理想のドライブフィールを求めるオーナーのため、本気で取り組んだ」エンジニアとして新たなステージに進んだ瞬間だった。

「自動車の先端技術 一貫してリード」

「見た目もエンジンも重厚感に満ちている。しかもその安全性は「貫して最上位」と堀口はクラウンの魅力を語る。いつの時代もクラウンには、トヨタが開発する最先端技術が

搭載され、自動車の未来をリードしてきた。

エンジニアの視点から、その進化で印象深いのは、1995年に登場した10代目。フルモノコックボディを採用し、先代モデルよりも100キロ以上も軽量化された。「重量感を感じさせるフロントマスクと驚くほど機敏な動き、心地よい加速性能のバランスが絶妙だった」

その進化は現在でも「貫して継続され、とどまるどころを知らない。現行のクラウンには4つの先進安全機能を組み合わせた安全装備「TOYOTA Safety Sense」が、全車種に標準装



長女と10代目クラウン

備されている。堀口が評価するポイントだ。

「妻と楽しむ休日 頼りになる旅の相棒」

プライベートでも10代目を端緒にクラウンを乗り継いでいる。子育ても一段落した近年、休日に年に数回、妻と一人、クラウンで当てのない旅に出る



妻と長男と旅先にて

のが楽しんだ。

「二度の旅で500キロぐらい走る。操縦性や居住性が優れているから、遠乗りしても全く疲れない。高速でほれぼれするようなパワーを発揮するのに静粛性も抜群。なくてはならない相棒です」

技術者としてもドライバーとしてもクラウンを熟知する堀口。スポーティーで流麗なスタイリングに生まれ変わった12代目の通称「ゼロクラウン」以降、30代、40代の比較的若いクラウンオーナーが増えてきたと感じている。

「自分なりにカスタマイズして、カーライフを楽しむ若い人が多いようです。クラウンには今後も先端技術やデザインで私たちが驚かせ、クルマの未来を牽引してほしいです」と期待を寄せた。

クラウンを語る Vol.02



1962年 二代目クラウン

It is a crown!

クラウンを知ることは、それはまさに日本の品質の高さを知ることです。「いつかはクラウン」という言葉がありました。60年以上、14代目の今でも多くの人々にとって憧れであり続けています。

昔も今も

“ やっぱりクラウンだね ”

「あなたとクラウンの思い出写真を募集」

初代～現行クラウンと一緒に写っている写真をお送りください。後日選考のうえ、新聞に掲載いたします。採用させていただいた方には、「トヨペットクラウン ミニカー」と「クオカード」をプレゼントいたします。

応募先 / 〒370-0006 高崎市問屋町2-3-6
上毛新聞高崎支社「クラウン思い出」係

応募方法 / 写真やエピソードに、名前、住所、年齢、電話番号を添えて上記宛先までお送りください。

※お送りいただいた個人情報は、本企画のみ使用し、第三者に公開するものではありません。写真は後日、返送いたします。